

シルバー人材センターに対する支援を求める意見書

シルバー人材センター（以下「センター」という。）は、高齢者等の雇用の安定等に関する法律に基づく団体で、地域の日常生活に密着した就業機会を提供すること等により、高齢者の社会参加を促進し、高齢者の生きがいの充実、健康の保持促進、ひいては地域社会の活性化、医療費や介護費用の削減等に貢献している。

令和五年十月に、消費税において適格請求書等保存方式（インボイス制度）が導入される予定となっている。

同制度が導入されると、免税事業者であるセンターの会員は適格請求書（インボイス）を発行することができないことから、センターは仕入税額控除ができなくなり、新たに預かり消費税分を納税しなければならないという問題が発生する。

しかし、公益事業を行うセンターの運営は収支相償が原則であり、新たな税を負担する財源はない。

人生百年時代を迎え、国をあげて生涯現役社会の実現が求められる中、報酬よりも社会参加・健康維持に重きをおいた「生きがい就業」をしているセンターの会員に対して、形式的に個人事業者であることをもって、インボイス制度をそのまま適用することは、地域社会に貢献しようと努力している高齢者のやる気、生きがいを削ぎ、ひいては地域社会の活力低下をもたらすものと懸念される。

センターにとって新たな税負担は、その影響が極めて大きく、まさに運営上の死活問題である。

消費税制度においては、小規模事業者への配慮として、年間課税売上高が一千万円以下の事業者は消費税の納税義務が免除されているところである。少額の収入しかないセンターの会員の手取額がさらに減少することなく、センターにおいて、安定的な事業運営が可能となるためには、センターの会員への配分金については、「適格請求書を交付することが困難な取引として交付義務を免除し、一定の事項を記載した帳簿のみの保存で仕入税額控除が認められる」適用除外等の措置を講ずる必要がある。

よって、国においては、センターの会員への配分金については、インボイス制度の適用除外とする等の措置を講ずるよう強く要望する。

以上、地方自治法第九十九条の規定により意見書を提出する。

令和四年六月十三日

内閣総理大臣 岸田 文雄 様

熊本県長洲町議会議長 福永 栄助

シルバー人材センターに対する支援を求める意見書

シルバー人材センター（以下「センター」という。）は、高齢者等の雇用の安定等に関する法律に基づく団体で、地域の日常生活に密着した就業機会を提供すること等により、高齢者の社会参加を促進し、高齢者の生きがいの充実、健康の保持促進、ひいては地域社会の活性化、医療費や介護費用の削減等に貢献している。

令和五年十月に、消費税において適格請求書等保存方式（インボイス制度）が導入される予定となっている。

同制度が導入されると、免税事業者であるセンターの会員は適格請求書（インボイス）を発行することができないことから、センターは仕入税額控除ができなくなり、新たに預かり消費税分を納税しなければならないという問題が発生する。

しかし、公益事業を行うセンターの運営は収支相償が原則であり、新たな税を負担する財源はない。

人生百年時代を迎え、国をあげて生涯現役社会の実現が求められる中、報酬よりも社会参加・健康維持に重きをおいた「生きがい就業」をしているセンターの会員に対して、形式的に個人事業者であることをもって、インボイス制度をそのまま適用することは、地域社会に貢献しようと努力している高齢者のやる気、生きがいを削ぎ、ひいては地域社会の活力低下をもたらすものと懸念される。

センターにとって新たな税負担は、その影響が極めて大きく、まさに運営上の死活問題である。

消費税制度においては、小規模事業者への配慮として、年間課税売上高が一千万円以下の事業者は消費税の納税義務が免除されているところである。少額の収入しかないセンターの会員の手取額がさらに減少することなく、センターにおいて、安定的な事業運営が可能となるためには、センターの会員への配分金については、「適格請求書を交付することが困難な取引として交付義務を免除し、一定の事項を記載した帳簿のみの保存で仕入税額控除が認められる」適用除外等の措置を講ずる必要がある。

よって、国においては、センターの会員への配分金については、インボイス制度の適用除外とする等の措置を講ずるよう強く要望する。

以上、地方自治法第九十九条の規定により意見書を提出する。

令和四年六月十三日

財務大臣 鈴木 俊一 様

熊本県長洲町議会議長

福永 栄助

シルバー人材センターに対する支援を求める意見書

シルバー人材センター（以下「センター」という。）は、高齢者等の雇用の安定等に関する法律に基づく団体で、地域の日常生活に密着した就業機会を提供すること等により、高齢者の社会参加を促進し、高齢者の生きがいの充実、健康の保持促進、ひいては地域社会の活性化、医療費や介護費用の削減等に貢献している。

令和五年十月に、消費税において適格請求書等保存方式（インボイス制度）が導入される予定となっている。

同制度が導入されると、免税事業者であるセンターの会員は適格請求書（インボイス）を発行することができないことから、センターは仕入税額控除ができなくなり、新たに預かり消費税分を納税しなければならないという問題が発生する。

しかし、公益事業を行うセンターの運営は収支相償が原則であり、新たな税を負担する財源はない。

人生百年時代を迎え、国をあげて生涯現役社会の実現が求められる中、報酬よりも社会参加・健康維持に重きをおいた「生きがい就業」をしているセンターの会員に対して、形式的に個人事業者であることをもって、インボイス制度をそのまま適用することは、地域社会に貢献しようと努力している高齢者のやる気、生きがいを削ぎ、ひいては地域社会の活力低下をもたらすものと懸念される。

センターにとって新たな税負担は、その影響が極めて大きく、まさに運営上の死活問題である。

消費税制度においては、小規模事業者への配慮として、年間課税売上高が一千万円以下の事業者は消費税の納税義務が免除されているところである。少額の収入しかないセンターの会員の手取額がさらに減少することなく、センターにおいて、安定的な事業運営が可能となるためには、センターの会員への配分金については、「適格請求書を交付することが困難な取引として交付義務を免除し、一定の事項を記載した帳簿のみの保存で仕入税額控除が認められる」適用除外等の措置を講ずる必要がある。

よって、国においては、センターの会員への配分金については、インボイス制度の適用除外とする等の措置を講ずるよう強く要望する。

以上、地方自治法第九十九条の規定により意見書を提出する。

令和四年六月十三日

厚生労働大臣 後藤 茂之 様

熊本県長洲町議会議長 福永 栄助

シルバー人材センターに対する支援を求める意見書

シルバー人材センター（以下「センター」という。）は、高齢者等の雇用の安定等に関する法律に基づく団体で、地域の日常生活に密着した就業機会を提供すること等により、高齢者の社会参加を促進し、高齢者の生きがいの充実、健康の保持促進、ひいては地域社会の活性化、医療費や介護費用の削減等に貢献している。

令和五年十月に、消費税において適格請求書等保存方式（インボイス制度）が導入される予定となっている。

同制度が導入されると、免税事業者であるセンターの会員は適格請求書（インボイス）を発行することができないことから、センターは仕入税額控除ができなくなり、新たに預かり消費税分を納税しなければならないという問題が発生する。

しかし、公益事業を行うセンターの運営は収支相償が原則であり、新たな税を負担する財源はない。

人生百年時代を迎え、国をあげて生涯現役社会の実現が求められる中、報酬よりも社会参加・健康維持に重きをおいた「生きがい就業」をしているセンターの会員に対して、形式的に個人事業者であることをもって、インボイス制度をそのまま適用することは、地域社会に貢献しようと努力している高齢者のやる気、生きがいを削ぎ、ひいては地域社会の活力低下をもたらすものと懸念される。

センターにとって新たな税負担は、その影響が極めて大きく、まさに運営上の死活問題である。

消費税制度においては、小規模事業者への配慮として、年間課税売上高が一千万円以下の事業者は消費税の納税義務が免除されているところである。少額の収入しかないセンターの会員の手取額がさらに減少することなく、センターにおいて、安定的な事業運営が可能となるためには、センターの会員への配分金については、「適格請求書を交付することが困難な取引として交付義務を免除し、一定の事項を記載した帳簿のみの保存で仕入税額控除が認められる」適用除外等の措置を講ずる必要がある。

よって、国においては、センターの会員への配分金については、インボイス制度の適用除外とする等の措置を講ずるよう強く要望する。

以上、地方自治法第九十九条の規定により意見書を提出する。

令和四年六月十三日

経済産業大臣 萩生田 光一様

熊本県長洲町議会議長 福永 栄助